

No.	目 名	科 名	種 名	調査時期			任意採集		ペイトラップ					ワイトラップ			
				夏季	秋季	春季	変更区域	事業計画地	事業計画地 周辺	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	L-1	L-2	L-3
548			アウスグロノメイガ	●													●
549			エンウスグロノメイガ	●													●
550			キバウノメイガ	●													●
551			コブノメイガ	●													●
552			シロアヤヒメノメイガ	●													●
553			エグリノメイガ	●													●
554			フタホシノメイガ	●													●
555			クロヘリキノメイガ	●													●
556			マエウスキノメイガ	●													●
557			エンキクロノメイガ	●													●
558			マエキノメイガ	●													●
559			ミツテシノメイガ	●													●
560			マメノメイガ	●													●
561			シロゲンキノメイガ	●													●
562			ホツマキノメイガ	●													●
563			ホモンノメイガ	●													●
564			クビシロノメイガ	●													●
565			コガタシロモンノメイガ	●													●
566			クロスジキノメイガ	●													●
567			ホソミスジノメイガ	●													●
568			オオキバウノメイガ	●													●
569			コヨツメノメイガ	●													●
570			ホソオビツチイロノメイガ	●													●
571			クロスジノメイガ	●													●
572			ウスベニオオノメイガ	●													●
573			ヒメマダラミスズメイガ	●													●
574			アトモンミスズメイガ	●													●
575			ヒメマダラミスズメイガ	●													●
576			フタスジツツリガ	●													●
577			ナカムラサキフトメイガ	●													●
578			キイブトメイガ	●													●
579			ネグロフトメイガ	●													●
580			ネグロフトメイガ	●													●
581			キモントガリメイガ	●													●
582			キバイトガリメイガ	●													●
583			カバイトガリメイガ	●													●
584			ウスモンマルバシマメイガ	●													●
585			トビイロシマメイガ	●													●
586			シロモンシマメイガ	●													●
587			ナシモンクロマダラメイガ	●													●
588			ツツマダラメイガ	●													●
589			マツノマダラメイガ	●													●
590			マツノマダラメイガ	●													●
591			マツノシママダラメイガ	●													●
592			ナシハマキマダラメイガ	●													●
593			ミカドマダラメイガ	●													●
594			サンカクマダラメイガ	●													●
595			アカマダラメイガ	●													●
596			ヒトスジホソマダラメイガ	●													●
597			ノシママダラメイガ	●													●
598		トリバガ	クロマダラトリバ	●													●
599			ナカノホソトリバ	●													●
600		セセリチョウ	アオハセセリ本干冊種	●													●
601			ダイミョウセセリ	●				●									●
602			ホソバセセリ	●				●									●
603			ヒメキマダラセセリ	●				●									●

No.	目 名	科 名	種 名	調査時期			任意採集		ペイトトフツフ					ワイトトフツフ				
				夏季	秋季	春季	事業計画地 改変区域	事業計画地 周辺	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	L-1	L-2	L-3		
604			イチモンジセセリ	●			●											
605			キマダラセセリ	●			●											
606			コチヤバセセリ	●			●											
607	アガハチヨウ		シヤコウアガハ本土亜種	●			●		●									
608			アオスジアガハ	●			●		●									
609			カラスアガハ本土亜種	●			●		●									
610			モンキアガハ	●			●		●									
611			ミヤマカラスアガハ	●			●		●									
612			クロアガハ本土亜種	●			●		●									
613	シロチヨウ		ツマキチヨウ	●			●		●									
614			キチヨウ	●			●		●									
615			ツマクロキチヨウ	●			●		●									
616			スシロシロチヨウ	●			●		●									
617			モンシロチヨウ	●			●		●									
618			コツバメ	●			●		●									
619			サツマシジミ	●			●		●									
620			ルリシジミ	●			●		●									
621			ベニシジミ	●			●		●									
622			ムラサキシジミ	●			●		●									
623			トラフシジミ	●			●		●									
624			ヤマトシジミ本土亜種	●			●		●									
625	ウラギンシジミチヨウ		ウラギンシジミ	●			●		●									
626	テンクチヨウ		テンクチヨウ本土亜種	●			●		●									
627	マダラチヨウ		アサギマダラ	●			●		●									
628	ダテハチヨウ		サカハチチヨウ	●			●		●									
629			ミドリヒヨウモン	●			●		●									
630			イシカガチヨウ	●			●		●									
631			ゴマダラチヨウ	●			●		●									
632			ルリダテハ本土亜種	●			●		●									
633			イチモンジチヨウ	●			●		●									
634			クモダヒヨウモン	●			●		●									
635			コムシジ	●			●		●									
636			キダテハ	●			●		●									
637			アカダテハ	●			●		●									
638			クロヒカゲ本土亜種	●			●		●									
639			ヒカゲチヨウ	●			●		●									
640			クロノマチヨウ	●			●		●									
641			コジャノメ	●			●		●									
642			ヒメウラナミジャノメ	●			●		●									
643			ヒメウラナミジャノメ	●			●		●									
644			マエキカギバ	●			●		●									
645			ウコンカギバ	●			●		●									
646			アサハニカギバ	●			●		●									
647			オオバトガリバ	●			●		●									
648			オオバトガリバ	●			●		●									
649			ホソトガリバ	●			●		●									
650	シヤクガ		ウスハラアガアオシヤク	●			●		●									
651			ヨツモンマエジロアオシヤク	●			●		●									
652			コヨツメアオシヤク	●			●		●									
653			ウスアオシヤク	●			●		●									
654			オオナミダアオシヤク	●			●		●									
655			マルモンヒメアオシヤク	●			●		●									
656			ヒメウスアオシヤク	●			●		●									
657			ウスキヒメアオシヤク	●			●		●									
658			モントビヒメシヤク	●			●		●									
659			ササナミシロヒメシヤク	●			●		●									

No.	目名	科名	種名	調査時期			任意採集		ペイトトワップ					ライトトワップ			
				夏季	秋季	春季	改変区域	事業計画地	事業計画地	周辺	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	L-1	L-2
716		アガハモドキガ	キンモンガ	●	●		●										
717		フタオガ	キスジシロフタオ	●	●												●
718		イカリモンガ	イカリモンガ	●	●	●	●										●
719		オビガ	オビガ	●	●												●
720		イホタガ	イホタガ			●											●
721		ヤママユガ	エソヨツメ			●											●
722		ススメガ	ミスジビロードススメ	●													●
723		シヤチホコガ	ハイバラシロシヤチホコ	●													
724			ヒダカシヤチホコ	●													
725			リンゴドクガ			●											
726		ドクガ	シロオビドクガ	●	●												●
727			ヒメシキコケガ	●	●												●
728		ヒトリガ	アカスジシロコケガ	●													●
729			ヒメキホソバ	●	●												●
730			ヤネホソバ	●	●												●
731			ツマキホソバ		●												●
732			スジベニコケガ		●												●
733			チヤオビチビコケガ		●												●
734			ウスグロコケガ		●												●
735			ナヲサキムジホソバ		●												●
736			ウスカバズジコブガ		●												●
737		コブガ	ナミコブガ		●												●
738			イチモジキノコヨトウ		●												●
739		ヤガ	オオバコヤガ	●	●												●
740			キジタミドリヤガ	●	●												●
741			ケンモンシキリガ		●												●
742			オオウズツマカラスヨトウ	●	●												●
743			カバマダラヨトウ	●	●												●
744			シロテンウスグロヨトウ		●												●
745			クロテンヨトウ		●												●
746			ヒメサビスジヨトウ		●												●
747			コゴヨトウ		●												●
748			ホソバネクロヨトウ		●												●
749			ホソバミドリヨトウ		●												●
750			フキヨトウ		●												●
751			リュウキユウキノカワガ		●												●
752			キンホシリンガ	●	●												●
753			アオスジアネリンガ		●												●
754			トビイロリンガ		●												●
755			ツマバネシマコヤガ	●	●												●
756			ベニシマコヤガ	●	●												●
757			ウスキコヤガ	●	●												●
758			キモンコヤガ	●	●												●
759			ヒメオビコヤガ	●	●												●
760			ホシコヤガ	●	●												●
761			フタオビコヤガ	●	●												●
762			モンシロカルマコヤガ	●	●												●
763			アトキスシカルマコヤガ	●	●												●
764			ウスベニコヤガ	●	●												●
765			シロフコヤガ	●	●												●
766			ホソバネキンウバ		●												●
767			ナミタルマアツバ	●	●												●
768			ニシオビベニアツバ	●	●												●
769			フタチンチビアツバ	●	●												●
770			ウスモモイロアツバ	●	●												●
771				●	●												●

(7) クモ類 (準備書本編 : 7-10-2 (7) 昆虫類・クモ類)

科名	種名	調査時期			任意採取確認場所区分		バイトトラップ					ライトトラップ				
		夏季	秋季	春季	事業計画地内		B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	L-1	L-2	L-3		
					変更区域	事業計画地外										
1	トダテクモ	キノボリトダテクモ														
2	マシラクモ	マシラクモ科の一種														
3	チリクモ	チリクモ														
4	ウスグモ	オウギクモ														
5		ヤマウスグモ														
6		エソウスグモ														
7	ナミハグモ	ナミハグモ属の一種														
8	ヤチクモ	ヤマヤチクモ														
9		ヤチクモ属の一種														
10		シモフリヤチクモ														
11	タナグモ	クサグモ														
12	キシダグモ	イオウイロハシリクモ														
13	サシアシグモ	シノビクモ														
14	コモリクモ	クラニクコモリクモ														
15		ヒノマルコモリクモ														
16		ハラクロコモリクモ														
17		スズキコモリクモ														
18		スジコモリクモ														
19		ハリゲコモリクモ														
20		デジロハリゲコモリクモ														
21		ウツキコモリクモ														
22	センショウグモ	センショウグモ														
		センショウグモ属の一種														
23	サラグモ	ヒコサンヌカグモ														
24		ツノヌカグモ属の一種														
25		ニセアカムネグモ														
26		ヒメヨツボシサラグモ														
27		デーニツツサラグモ														
28		ムレサラグモ														
29		ユノハマサラグモ														
30		ニシキサラグモ														
31		チビサラグモ														
		サラグモ科の一種														
32	ヒメグモ	サイトウモリヒメグモ														
33		ムネグロヒメグモ														
34		ユノハマヒメグモ														
35		コケヒメグモ														
36		タカコヒメグモ														
37		ハラギヒメグモ														
38		ヒロハヒメグモ														
39		ホシミドリヒメグモ														
40		ニホンヒメグモ														
41		カニミジグモ														
42	ヨリメグモ	ナンブコップグモ														
43	ジョロウグモ	ジョロウグモ														
44	アシナガグモ	キンヨウグモ														
45		ヤマジドヨウグモ														
46		チクニドヨウグモ														
47		タニマノドヨウグモ														
48		キララシロカネグモ														
49		ヨツボシヒメアシナガグモ														
50		ミドリアシナガグモ														
51		キヌアシナガグモ														
		アシナガグモ属の一種														
52	コガネグモ	ヤマトカナエグモ														
53		ムツボシオニグモ														
54		サガオニグモ														
55		カラフトオニグモ														
56		サツマノミダマシ														
57		ヤマシロオニグモ														
58		ヤミイロオニグモ														
59		マルツメオニグモ														
60		マメオニグモ														
61		トガリオニグモ														
62	シボグモ	シボグモ														
63	ワシグモ	トラフワシグモ														
64		ハイタカグモ														
65	カニグモ	ワカバグモ														
66		セマルトラフカニグモ														
67		ヤミイロカニグモ														
68		チクニエビスグモ														
69		コハナグモ														
70		ハナグモ														
71	フクログモ	カギフクログモ														
72	イツツグモ	ナガイツツグモ														
73	ウエムラグモ	イタチグモ														
74	ハエトリグモ	ヤサアリグモ														
75		アリグモ														
76		アオオビハエトリ														
77		デーニツツハエトリ														
78		カラスハエトリ														
79		カタオカハエトリ														
	24科	79種	26	22	35	27	22	39	11	6	7	8	4	0	0	3

(8) 陸産貝類 (準備書本編 : 7-10-2 (8) 陸産貝類)

目名	科名	種名	調査時期			確認場所区分				
			夏季	秋季	春季	事業計画地内		事業計画地外		
						変更区域				
1	ニナ	ヤマタニシ	ヤマタニシ							
2		ヤマグルマガイ	ヤマグルマガイ							
3	マイマイ	キセルガイ	ナミギセル							
4		ナメクジ	ヤマナメクジ							
5		ベッコウマイマイ	ベッコウマイマイ科の一種							
6		ニッポンマイマイ	シメクチマイマイ							
7			コベソマイマイ							
8		オナジマイマイ	イズモマイマイ							
9			アズマオトメマイマイ							
			オトメマイマイ属の一種							
	2目	7科	9種	4種	5種	4種	5種	1種	7種	

(9) 底生動物 (準備書本編 : 7-10-2 (9) 定生動物)

確認種リスト (定量調査 + 定性調査)

(1 / 3)

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点						
						事業計画地 St.A	恵下谷川 St.1	St.2	St.3	不明谷川 St.4	水内川 St.5	
1	扁形動物門	渦虫綱	楯列目	サンカクアタマウスムシ科	ナミウスムシ							
2	環形動物門	ハリガネムシ綱	ハリガネムシ目	(不詳)	ハリガネムシ目の一種							
3	軟体動物門	腹足綱	腹足目	カウニナ科	カウニナ	●	●			●		
4	環形動物門	ミミズ綱	オヨギミミズ目	フトミミズ科	<i>Pheretima</i> 属の一種	●						
5			ツリミミズ目	イシビル科	シマイシビル							
6	7. 節足動物門	軟甲綱	蟹脚目	ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ	●	●					●
7			ワラジ目	ミズムシ科	ミズムシ							
8			エビ目	サワガニ科	サワガニ	●	●					
9			カゲロウ目	ヒメワタオカガロウ科	<i>Ameletus</i> 属の一種	●	●					●
10				コカガロウ科	コカガロウ	●	●					●
11					シロハラコカガロウ	●	●					●
12					黒コカガロウ	●	●					●
13					ヒコカガロウ	●	●					●
14					シロハラコカガロウ	●	●					●
15					黒コカガロウ	●	●					●
16					ヒコカガロウ	●	●					●
17				ヒラタカガロウ科	<i>Clavella</i> 属の一種	●	●					●
18					オニヒメタニガワカガロウ	●	●					●
19					キブネタニガワカガロウ	●	●					●
20					トラタニガワカガロウ	●	●					●
21					クロタニガワカガロウ	●	●					●
22					シロタニガワカガロウ	●	●					●
23					<i>Ecdyonurus</i> 属の一種	●	●					●
24					キイロヒラタカガロウ	●	●					●
25					ウエノヒラタカガロウ	●	●					●
26					ナミヒラタカガロウ	●	●					●
27					タニヒラタカガロウ	●	●					●
28					ユミモンヒラタカガロウ	●	●					●
29					<i>Epeorus</i> 属の一種	●	●					●
30					ヒメヒラタカガロウ	●	●					●
31				チラカガロウ科	<i>Rhithrogena</i> 属の一種	●	●					●
32				トビイロカガロウ科	チラカガロウ	●	●					●
33					ヒメトビイロカガロウ	●	●					●
34				モンカガロウ科	ナミトビイロカガロウ	●	●					●
35				マダラカガロウ科	ウエストントビイロカガロウ	●	●					●
36					フタスジモンカガロウ	●	●					●
37					モンカガロウ	●	●					●
38					オオクママダラカガロウ	●	●					●
39					クロマダラカガロウ	●	●					●
40					オオマダラカガロウ	●	●					●
41					ヨシノマダラカガロウ	●	●					●
42					コウノマダラカガロウ	●	●					●
43					シリノマダラカガロウ	●	●					●
44					ホソバマダラカガロウ	●	●					●
45					カシガマダラカガロウ	●	●					●
46					エラブタマダラカガロウ	●	●					●
47				カワトンボ科	ミヤマカワトンボ	●	●					●
48					ニシカワトンボ	●	●					●
49					ムカシトンボ	●	●					●
50					コンボソヤンマ	●	●					●
51					ミルンヤンマ	●	●					●
52					クロサナエ	●	●					●
					ダビドサナエ	●	●					●
					<i>Davidius</i> 属の一種	●	●					●
					ヒメクロサナエ	●	●					●
					コオニヤンマ	●	●					●

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点						
						事業計画地 St.A	恵下谷川 St.1	不明谷川 St.2	不明谷川 St.3	不明谷川 St.4	水内川 St.5	
53					オシロイナエ							
54					オニヤンマ科	●	●	●		●		
55					エフトンボ科							
56			カワガヤ目		オナシカワガヤ科	●	●	●	●	●		●
57					Amphitetras 属の一種	●						
58					Nemoura 属の一種	●						
59					Protonemura 属の一種							
60					ヒメノギカワガヤ		●	●	●	●		
61					ヒメミドリカワガヤ	●	●	●	●	●		●
62					ミドリカワガヤ科の一種		●	●	●	●		
63					カワガヤ科			●	●	●		
64					Gibbsia 属の一種							
65					カミムラカワガヤ			●	●	●		●
66					ウエノカワガヤ			●	●	●		●
67					Neoperla 属の一種	●			●			●
68					ヤマトカワガヤ	●			●			●
69					オオヤマガワガヤ	●	●	●	●	●		●
70					Paragnetina 属の一種	●			●			●
71					キペリトウゴウカワガヤ	●	●	●	●	●		●
72					カワガヤ科の一種	●	●	●	●	●		●
73					Ostrorivus 属の一種			●	●			●
74					アミメカワガヤ科		●	●	●	●		●
75					ヒロハネアミメカワガヤ							
76					Stavusolus 属の一種	●						●
77					コウノアミメカワガヤ							
78					アミメカワガヤ科の一種	●			●			●
79					シマアメンボ	●	●	●	●	●		●
80					ナベフタムシ							
81					ヘビトンボ	●	●	●	●	●		●
82					ヤマトクロスジヘビトンボ							
83					ヘビトンボ							
84					シマトビケラ科							
85					コガタシマトビケラ							
86					ナミコガタシマトビケラ							
87					Dolobrotoma sp. DB	●	●	●	●	●		●
88					シロスシマトビケラ							
89					ウルマーシマトビケラ							
90					ナカハラシマトビケラ	●	●	●	●	●		●
91					カワトビケラ科							
92					イワトビケラ科							
93					Psychomyia 属の一種							
94					ヒガナガカワトビケラ科							
95					キソイワトビケラ							
96					Plectrocnemia 属の一種	●	●	●	●	●		●
97					ヒガナガカワトビケラ							
98					チャハネヒガナガカワトビケラ							
99					Glossosoma 属の一種	●	●	●	●	●		●
100					ヒロアタマナガレトビケラ							
101					カワムラナガレトビケラ							
102					キノナガレトビケラ							
103					レゼイナガレトビケラ							
104					ムナグロナガレトビケラ							
105					シロツナガレトビケラ							
106					トランススキラナガレトビケラ							
107					ヤマナカナガレトビケラ							
108					ニンギョウトビケラ							
109					クロニンギョウトビケラ							
110					オオカクツツトビケラ							
111					Neosvetlana 属の一種	●	●	●	●	●		●
112					ヨツメトビケラ							
113					フタスジキソトビケラ	●			●			●

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点					
						事業計画地 St. A	恵下谷川 St. 1	St. 2	St. 3	不明谷川 St. 4	水内川 St. 5
106				トビケラ科	ムラサキトビケラ				●		
107				ケトビケラ科	<i>Gumasa</i> 属の一種			●		●	●
108				クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ			●		●	●
109			ハエ目	ガガンボ科	<i>Anoccha</i> 属の一種			●		●	●
110					<i>Hexatoma</i> 属の一種	●		●	●	●	●
111					<i>Ilydia</i> 属の一種		●	●	●	●	●
112				アミカ科	トクナガヤマトアミカ					●	●
113					ヤマトアミカ					●	●
114					フタトガミヤマトアミカ		●				
115				ユスリカ科	ダンゾラヒメユスリカ						
116					<i>Glaetco-ladius</i> 属の一種	●				●	
117					<i>Cladotartarus</i> 属の一種	●					
118					<i>Conchanelopia</i> 属の一種					●	●
119					<i>Epoico-ladius</i> 属の一種					●	●
120					<i>Fukiefferella</i> 属の一種		●	●	●	●	●
121					<i>Microtandipes</i> 属の一種			●		●	●
122					クビユスリカ					●	●
123					<i>Orthocladus</i> 属の一種			●		●	●
124					<i>Parakiefferella</i> 属の一種			●		●	●
125					<i>Polyedellum</i> 属の一種			●		●	●
126					<i>Potthastia</i> 属の一種					●	●
127					<i>Rhoctantarsus</i> 属の一種			●			
128					<i>Tantarsus</i> 属の一種					●	●
129					<i>Tokunakata</i> 属の一種					●	●
					エリユスリカ亜科の一種					●	●
130				ホソカ科	<i>Diva</i> 属の一種			●			●
131				ブユ科	ツメトガブユ			●		●	●
132					ニッポンヤマトブユ		●	●		●	●
133					ススキアシマダラブユ					●	●
134				ナガレア科	ハマダラナガレア					●	●
135				アブ科	ウシアブ		●				
136			コウチュウ目	ゲンゴロウ科	モンキマメゲンゴロウ			●		●	●
137					サワダマメゲンゴロウ						
138				ミズスマシ科	ミズスマシ			●			
139				ヒメドロムシ科	イブシアシナドロムシ			●		●	●
140					アシナガミノドロムシ						
					<i>Steno-lmis</i> 属の一種			●			●
141					ツヤドロムシ						●
142					ヒメドロムシ亜科の一種	●				●	●
143				ヒラタドロムシ科	クシヒガマルヒラタドロムシ					●	●
144					ヒラタドロムシ					●	●
				ナガハナノミ科	ナガハナノミ科の一種			●		●	●
				5門7綱17目55科144種		42種	45種	73種	58種	96	60

6-2 重要種選定基準について

重要種の選定基準カテゴリーについて、以下に示します。

(1) レッドリスト(環境省)における重要種のカテゴリーについて

(1/5)

■カテゴリー定義

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種(注1)	過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。	
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。 T H R E A T E N E D	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
		絶滅危惧 I A 類 (CR) A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. <u>過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間(注2。以下同じ)を通じて、90%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。</u> 2. <u>過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</u> 3. <u>今後10年間もしくは3世代のどちらか長期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。</u> 4. <u>過去と未来の西方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において80%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</u> B. 出現範囲が100km ² 未満もしくは生息地面積が10km ² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。 1. 生息地が過度に分断されているか、ただ1カ所の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

(注1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(注2) 最近10年間もしくは3世代：1世代が短く3世代に要する期間が10年未満のものは年数を、1世代が長く3世代に要する期間が10年を超えるものは世代数を採用する。

■カテゴリー定義

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D		<p>C. 個体群の成熟個体数が250未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に25%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 50以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中に90%以上の成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が50未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、10年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が50%以上と予測される場合。</p>
	<p>絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN)</p> <p>IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p>	<p>絶滅危惧 I B 類 (EN)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、70%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において50%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が5,000km²未満もしくは生息地面積が500km²未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、5以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
		<p>C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わ 場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、<u>かつ次のいずれかに該当する。</u> <ol style="list-style-type: none"> a) <u>個体群構造が次のいずれかに該当</u> <ol style="list-style-type: none"> i) <u>250以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。</u> ii) <u>1つの下位個体群中に95%以上の成熟個体が属している。</u> b) <u>成熟個体数の極度の減少</u> <p>D. 成熟個体数が250未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。</p>
<p>絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p> <p style="text-align: center;">T H R E A T E N E D</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。 	<p>絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。</u> 2. <u>過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</u> 3. <u>今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があると予測される。</u> 4. <u>過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</u> <p>B. 出現範囲が20,000km²未満もしくは生息地面積が2,000km²未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、10以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>絶滅危惧</p> <p>T H R E A T E N E D</p>		<p>C. 個体群の成熟個体数が10,000未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10年間もしくは3世代のどちらか長い期間に10%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 1,000以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中にすべての成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が1,000未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。</p> <p>E. 数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合。</p>
<p>準絶滅危惧</p> <p>Near Threatened (NT)</p> <p>存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) 個体数が減少している。 b) 生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) 交雑可能な別種が侵入している。 	
<p>情報不足</p> <p>Data Deficient (DD)</p> <p>評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>次に該当する種</p> <p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 	

●付属資料

区分及び基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP)</p> <p>地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <p>①生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。</p> <p>②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。</p>	

(2) 「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物～レッドデータブック広島
2003～」(広島県) における重要種の 카테고리について

(1/2)

●カテゴリー定義

区分及び基本概念		要件
絶滅 (EX) 広島県ではすでに絶滅したと考えられる種 (動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種)		過去に広島県に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、広島県ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種		過去に広島県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、広島県においては野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ① 信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ② 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③ 過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。
絶滅危惧 THREATENED	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ① 既知のすべての個体群で、危機的水準まで減少している。 ② 既知のすべての生息・生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。 ③ 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤ それほど遠くない過去 (30 年～50 年) の生息記録以後確認情報がなく、その後の信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
	絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ② 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。

<p>準絶滅危惧 (NT) 存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> a 個体数が減少している。 b 生息条件が悪化している。 c 過度の捕獲・採集圧による圧迫を受けている。 d 交雑可能な別種が侵入している。
<p>情報不足 (DD) 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的にはつぎのいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <ul style="list-style-type: none"> a どの生息・生育地においても生息・生育密度が低く希少である。 b 生息・生育地が局限されている。 c 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

●付属資料

区分及び基本概念	要件
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生息・生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見ただけで絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。 ② 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。

(3) 「広島市の生物 - まもりたい生命の営み - 」, 「広島市の生物 補遺版」
 (広島市)における重要種のカテゴリーについて

区 分		基 本 概 念	要 件	備 考
絶 滅	絶 滅	市域では、絶滅した可能性が高い。	市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。	
	野生絶滅		市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。 公的な機関の管理下で、栽培・飼育されている。	
広 島 市 の 絶 滅 の お そ れ の あ る も の	絶滅危惧 絶滅の危険性の高いもの	現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に市域での個体群の存続が危ぶまれる。	確実な情報により、つぎに該当するもの。 大部分の生育・生息地で、 ①個体数の大幅な減少、 ②生育・生息条件の明らかな悪化、 ③再生産を上回る捕獲・採取圧のいずれかが認められる。	環境庁(1997)の新カテゴリにより「絶滅危惧」に選定された種は、原則としていずれかにランクする。
	準絶滅危惧 存続基盤が脆弱なもの	現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化により上位ランクに移行する可能性が高い。	生育・生息状況の推移からみて、個体数の減少や生育・生息条件の悪化などの傾向が著しく、今後さらに進行するおそれがある。 または、環境条件の変化により、容易に危険度が増大する属性(希少性、特異性、孤立性など)を有する。	確実な情報のないものは、「準絶滅危惧」または「現状不明(情報不足)」にランクする。
	軽度懸念	市域では、存続基盤が比較的安定している。	環境庁レッドリスト及びレッドデータブック、「広島県版レッドデータブック」選定種であるが、市域では確実な情報により「絶滅危惧」「準絶滅危惧」にランクされないと判定できる。	環境庁レッドリスト及びレッドデータブック、「広島県版レッドデータブック」選定種またはそれに相当する種のうち、「絶滅危惧」または「準絶滅危惧」の要件を満たさないもの。
	情報不足	希少な種であるが、市域での現状が不明である。	環境庁レッドリスト及びレッドデータブック、「広島県版レッドデータブック」選定種であるが、ランクを判定する情報が得られていない。	
環境指標種		重要な自然環境を積極的に保全する。	種(個体群)そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種(個体群)に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然などの観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうる。	地域計画などに応用していくことを目的とする。